

# みんなで考える厚岸町の10年後 ～夢が広がるまちづくりワークショップ～

●問い合わせ／政策調整係

町民の皆さんが厚岸町の現状と課題、『めざすまちの姿』や今後の方策について意見を出し合い、集約した意見や提案などを総合計画に反映させるとともに、町民の皆さんのまちづくりへの興味関心を醸成するため、平成30年9月から12月に『みんなで考える厚岸町の10年後～夢が広がるまちづくりワークショップ～』を全4回開催しました。今月号では、その中から主な内容を抜粋してお知らせします。 ※醸成とは、機運や情勢をつくり出すことを意味します

第2回

## やさしさあふれ健やかに安心して暮らせるまち厚岸

保健・医療、地域福祉、高齢者福祉、障がい者(児)福祉、子育て支援、社会保障

つながりの強化による  
支え合い体制の構築

独居高齢者や、子育て中の母親、障がい者(児)など、地域において支援を必要とする人は大勢いるとの意見が挙げられました。こうした支援を必要とする人たちの福祉ニーズに対応していくためには、住民主体の支え合いのまちづくりを進めていくことが課題です。その具体的な手段として、さまざまな立場の人が垣根なく交流を図れるサロン事業など、つながりの創出が求められています。また、日々の生活の中で住民同士が見守りや支え合いを実践できるよう、障がいに関する知識の普及・啓発など、福祉意識の醸成を図ることも必要です。



町の施設に授乳スペースやおむつ交換台が少ない…

福祉サービスなどの情報を得るのが難しい



高校生まで医療費無償はありがたい!

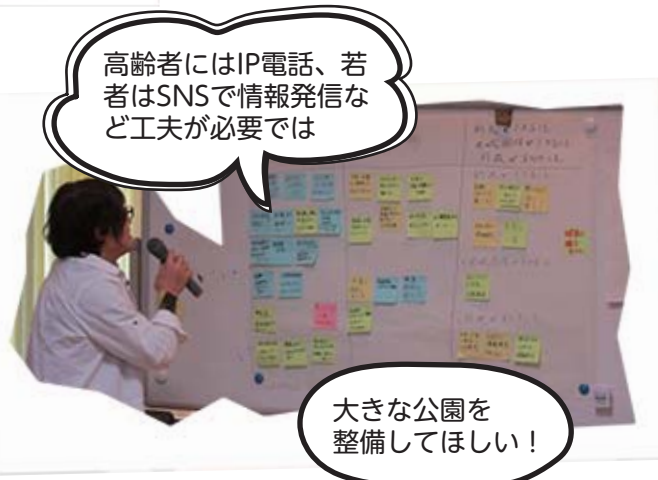
高齢化率が上昇している、老老介護も増加している

福祉に関する情報の効果的な周知

福祉サービスに関する情報が住民に行き届いておらず、支援を必要とする人がサービスの利用に至れていないケースがあるという意見が挙げられました。こうした中で、例えば、高齢者に対してはIP電話、若者に対してはSNSを利用するなど、どうしたら情報が届くのかを検討し、効果的な情報の周知を図っていくことが求められています。

参画・協働でみんなに優しいまちづくり

障がい者の雇用に関することや、独居高齢者の災害時支援に関すること、子育て支援の充実に向けた町の施設に対する改修要望、医療体制の充実を求める意見など、日頃の生活の中で感じるさまざまな課題が挙げられました。この一方で、気軽に相談できる場所がない、行政に対して要望する手順が分からないという意見もありました。今後は、住民と行政とが、こうした課題を共有し、参画・協働でみんなに優しいまちづくりを進めていくことが求められています。このためにも、気軽に生活課題について相談できる体制の整備や、課題解決に向けた手順などを住民に示していくこと、行政と住民の意見交換の機会創出などを図っていくことが必要です。



高齢者にはIP電話、若者はSNSで情報発信など工夫が必要では

大きな公園を整備してほしい!

第1回

## にぎわいに満ちた活力と魅力あるまち厚岸

産業、観光、雇用、移住・定住



企業誘致を行うことで雇用や人口増加につながるのでは

給与が全体的に低いので、待遇改善が必要

産業

漁業や酪農といった第1次産業において、担い手や後継者が不足している意見が複数挙げられました。町内には第1次産業に付随した運送業や加工業も営まれていることから、産業全体の振興を図るために、担い手や後継者を確保することは喫緊の課題です。また、観光と関連して、観光客が第1次産業を体験できるような体験型観光の商品化を求める声も上がりました。このように、カキやウイスキーといった、すでに知名度の高い特産品を大切にするとともに、新たな魅力あるものの創造や、そのPRが求められています。

観光と商業

観光客を呼び込み、滞在してもらうためにも、商業施設や宿泊施設、大きな公園の整備、夜間タクシーの運行などを求める意見が多く挙げられました。これと同時に、町が観光客に好感を抱いてもらえるよう、ごみの清掃など環境の美化を推進することも課題です。また、新たな観光客を呼び込むためにも、多くの町民から協力を得て、町外の人が思わず訪れてみたくなるようなイベントなどを開催することや、SNSなどを通じてPRを積極的に行っていくことが求められています。



町に興味を持ち、自ら住みたいと思える町にしよう!



酪農や水産業では跡継ぎ問題が課題…

町を盛り上げようという町民への意識付けが必要では?

雇用と移住・定住

「働く場所が少ない」、「職種が限られている」、「給与や待遇が悪い」といった意見が挙げられました。子どもたちが地元に残り続けてもらうためや、Uターン・Iターンを受け入れるためにも、雇用環境の改善を図る必要があります。また、移住・定住を推進するためには、子育て世代にとって魅力的な町であることが重要です。現状では、子どもを預けられる施設が少なく、子育て世代が働くには難しい環境であるとの意見も挙げられており、こうした人たちのアイデアを取り込んだまちづくりを推進することが求められています。